健気な褐色妹が
壊されるまで
基本CG 8 枚
本編 83 ページ
総枚数 221 ページ
Presented by ふうりん亭

それじゃ、お兄ちゃん
ちょっと出かけてくるね
ミレイユ？
買い物にでもいくのか？

もう、お兄ちゃんってば
街で頼まれたクエストだよ！
あーパーティに誘われたんだっけ？
一人で大丈夫か？
僕もついて行こうか？

ウィータもついてるから大丈夫――
それより私がいない間
お兄ちゃんの方が心配だよ
あーはいはい
掃除も洗濯もちゃんとやるから
安心していって来い
あとお勉強もね？
カティア様やみんなに迷惑かけちゃだめだよ？
だからわかってるって…

それじゃあ行ってきます！
がんばってね！ お兄ちゃん！
頑張るのはミレイユだろー
気を付けて行ってくるんだぞ

そんな何気ないやり取りを最後に――ミレイユは姿を消した

今思えば――見知らぬ冒険者のパーティに妹を一人で送り出すことを
もっと警戒するべきだったのかもしれない
あの時強引にでも引き止めるべきだったのかもしれない

どう考えても過保護だけど
僕だっていつもミレイユに過保護にされて笑われてるんだから
それくらいしても良かったはずなんだ

そうしていれば――

何の手がかりもないまま一月が過ぎたころ――
見知らぬ人物から僕の下に三つの『記録のルーン』が届いた
これは持ち主の見たものを映像として記録しておける貴重なルーンだ
嫌な予感がする――
それでも僕は何かの手がかりになることを期待して
『記録のルーン』に魔力を込めた――

記録始めまーす
それじゃあミレイユちゃん
これお兄ちゃんに送るから挨拶して
あ…
見ないで…
あ…あ…や…やだ…ッ
み…みないで…ッ
はい！　注文通りの怯えた反応
ありがとうミレイユちゃん！
はッ――
感謝しろよ？　大好きな兄貴に
見せてやろうと思ってわざわざルーンを
仕入れたんだぜ？
ビッ
ビッ
ビッ
ビッ
ビッ
えー多分お兄ちゃんは状況をのみ込めてないと思うからね
少し説明してあげようか――

そこに映っていたモノ、男の台詞がすぐには理解できない――
ミレイユは衣服をはぎとられ、四肢を拘束されて檻に入れられていた
周りには数人の男がいるらしい
その中の一人が僕に向けて説明を始めた

自分たちが人身売買組織であること――
あのクエストが初めからミレイユの身に間が掛けた懸賞金を
狙って計画されたものであること――
魔物に追い詰められたふりをしてミレイユに匹わせ、後ろからだまし討ちをしたこと
そしてこれからミレイユをどうしようとしているのか――

「やめろ――」

はい
それじゃあミレイユちゃんの処女
ボクが最初に頂きまーす♡
ひッ…あッ…や……ッ
い…いやです…ッ！
なんで…こんな……ッ
元気いっぱいでいいねー♡
これが飛行島に届くのには一月くらいかかるからねー
元気な初体験をお兄ちゃんに見せないとね♡
あう…あ…なんで…ち、カ…入らな…っ
そんな…大きいの…む…むりです…ッ！
お前らには一度痛い目見せられてるからな
その鎖には魔力の吸収と混乱のルーンを刻んである
ご自慢の魔法も不死鳥とのコミュニケーションもムリだぜ
うそ…ウィータあ…ッ…こたえて…
う…あ…おにいちゃ…ッ…たすけ――

ひぎぁッ…いッ…くぁ……ッ
い…いだ…ッ！　痛い……ッ！
ぎぢッ…ッ
うわミレイユちゃんおまんこキツすぎ♡
まあまだ十●歳だもんね
もっと力抜かないと裂けちゃうぞ♡
ふー…ッ…ふーッ…お、大き…むり…っ
おねが…ッ…ほんとに…裂けちゃ…ッ
ぐぢッ
ぐぢッ
ぐぢ

あぁッンがッ～～…ッ～～ッッ
ほらちゃんと入ったよ♡
女の子の体はどんな大きなチンポでも
ちゃんと受け入れられるようにできてるんだよ♡
ハハッ――よく言うぜ(笑)
その出血は明らかに処女膜破れただけじゃねえだろ！
マジで腹まで膨らんじまってるしよ
ほらお兄ちゃんちゃんと見てる？
キミの妹が一人前の女性になったところ♡

ぐぅッ…やめッ…うごかな……ッ
ぐ…ぐりぐり…しないれッ！
いだい……ッ…いだいの！
あめッッ
ぐるっ
これすっご――未熟なマンコを無理やり
こじ開けてる感が最高だ♡
チンコ食いちぎられそうだ♡
あ…ッ…おぐッ…こっこっしないれ…ッ
やめ…ッ……こわれちゃいます…ッ
でもさすがに全部は入らないなぁ♡
ふふ――いずれは僕のを全部呑み込めるよう
しっかり調教しないとね

ッ…ッッ～～…ッ～～…ッ
やっぱりカづくでもこれ以上はいらないや♡
ごめんごめんびっくりしたでしょ？
かは…ッ…ッ…も…やめ…ッ
じゃあそろそろ一発出すからね～♡
ミレイユちゃん一緒にイこうね？

ッあ…が…ッッ…あッ…ッ！？
は…はげし…うごかないれ…ッ！
か…からだ…ッさけちゃ…ッ！
あッ！
あッ！
あッ！
う…ッ…そろそろ出そうだ…ッッ
ミレイユちゃん…膣内に出すからね♡
あ…やぁ…ッ…なかは…らめぇ…ッ！
あかちゃん…できちゃう…ッ！！
ふふ、お兄ちゃんに見せてあげようね
ママになっちゃうとこ♡
…うめ…ッ…やめ…ッッ！

熱ッ…ッ…やッッ…ッッ！？
んあああッ…ッッ！
熱い！！
熱い！！
ぶるっ
ぶるっ
ぶるっ

ふ…ッ…ふッ…う…あ…ッッ！
やぁ…ッ…もれちゃ…ッ
ふッ
ぷしっ
あーあーあー
おまえ一発目から出しすぎなんだよ
ザーメン溢れてきてんじゃねえか
だってミレイユちゃん気持ちいいんだもん♡
それに捕まえた奴が最初に自由にしていいルールでしょ？
ぷるるっ
ぷしっ
ビクッ
ぷしゅっ
ぷしゅぷしゅ
ぷしゅっ
ぷしっ
——たく
オマエに先こされたのが運のツキか…

まあいいや
次は俺がたっぷり使ってやるから
覚悟しとけ
あ…
あ…
あ…
あ…ッ…あッ…う…あ…ッッ
ははッ――いい表情するじゃねェか！
お前ら兄妹は覚えてねえだろうがな…
俺はお前らに一度組織をつぶされてんだ
ガキ孕ませるくらいで済むと思うんじゃねーぞ
穴も頭もぐちゃぐちゃになるまで遊んでやるよ
ぐちゃ
俺たちに楯突いたことをルーンの向こうで後悔しろよ
――お兄ちゃん
妹がぶっ壊されんのをおとなしく見てやがれ

その後も男たちは代わる代わるミレイユを犯していった
まるで奴隷か物のように扱われながら、不意に僕を呼ぶ妹を
ただ見ていることしかできなかった

げほ…ッ…げほッ……かは…ッ

げほッ

げほッ

かはッ

ぶるる…

あーやったやった…
今日はもうでねえわ―…

ミレイユちゃんもすっかりザーメンまみれになっちゃったね♡
きっとお兄ちゃんも大人になったミレイユちゃんを見て
喜んでくれるよ♡

しっかしまあ―薄情な兄貴だなミレイユちゃんよ
妹がこんなになるまで犯されてんのに
多分アイツ気づいてもいないぜ？

ぴくっ

ぴくん

ギッ

ドロッ

…ッ…おにいちゃんを…ッ…
…ばかに…しないで…ッ
ミシッ
おーすげぇすげぇ
こんだけやられてまだ折れてねぇのか
すげぇ睨んでやがる
処女ぶち抜かれてあれだけ泣き叫んでたくせによ
ぎゅッ
…ッ…誰が…ッ…そんな
あなたたちなんか…みんながすぐに…ッ
なんだ？
まさか俺たちを脅してんのか？
かわいいねぇ――
ほらミレイユちゃん僕らと日が暮れるまでエッチした
感想お兄ちゃんに伝えてあげなよ♡
ぶるるッ
お…おにいちゃ…心配…しないで…
すぐ……かえるから……ッ
はッ――こいつは躾け甲斐があるぜ
まこの映像がお兄ちゃんに届くころには
手遅れになってるだろうがな
ぶるっ

『オマエに対して要求はない――ただそこで見てろ
大事な妹が俺らの玩具になるところをな』

男の声とともに映像はそこで終わっていた――しかしまだ手元には二つの
『記録のルーン』がある

そこにどんな映像が記録されているのか予想が付いてしまう

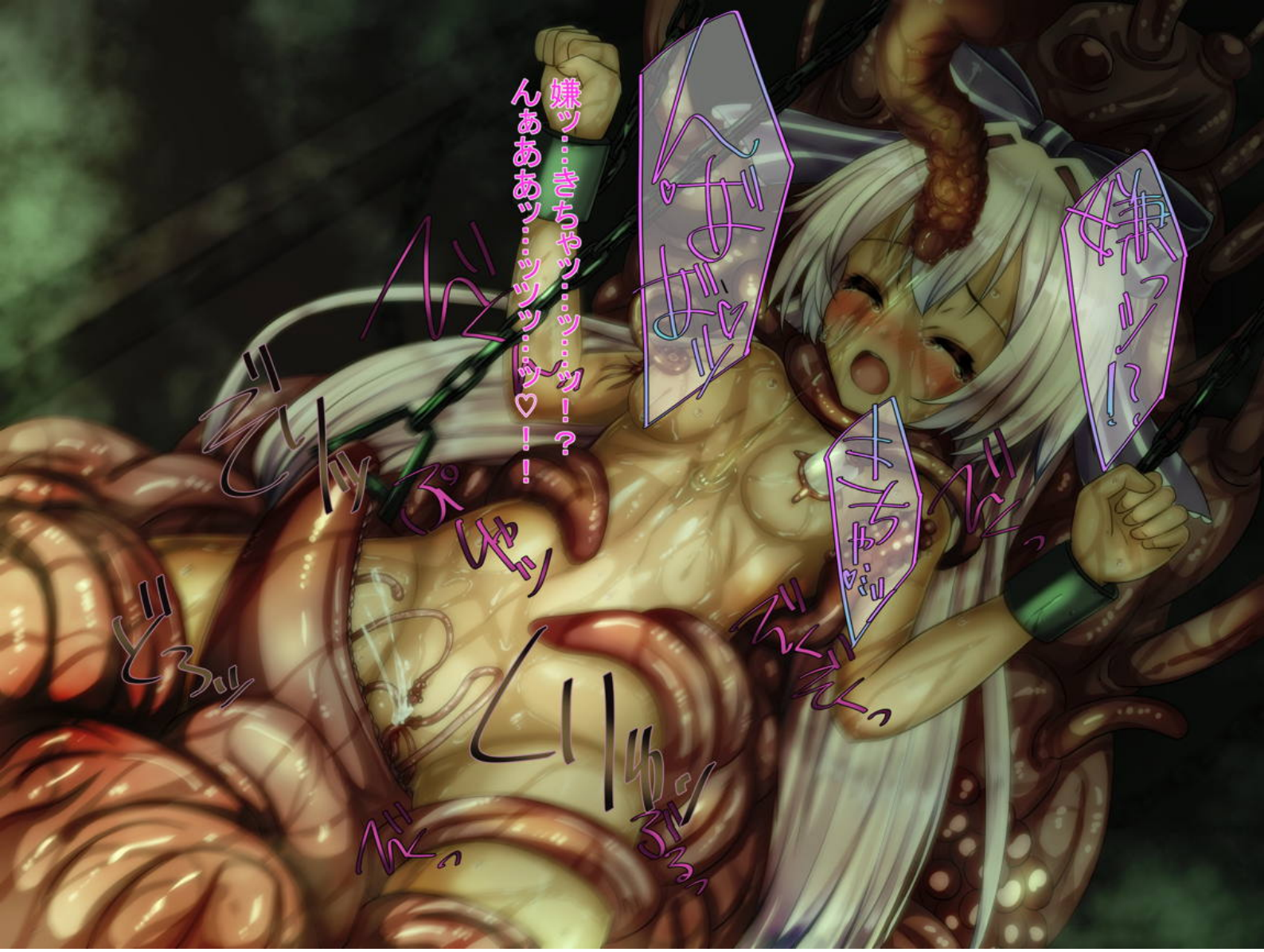
コイツらを――殺す
今すぐルーンを全て焼き払いたくなる

でもだめだ
やっと見つけたミレイユへの唯一の手がかりを消すわけにはいかない
僕を信じてくれたミレイユを助けるんだ――

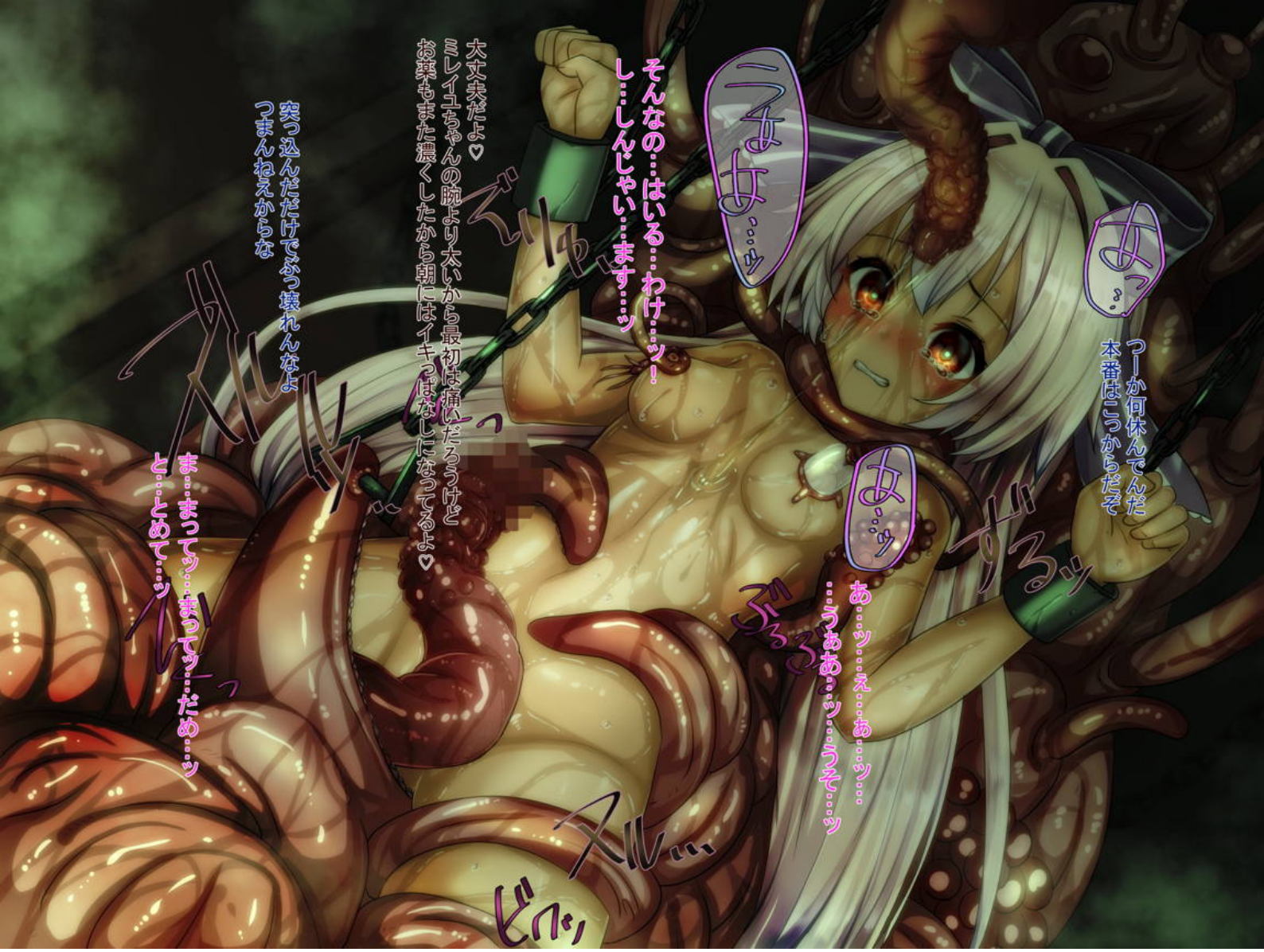
――見るしかない

…ッ…はッ…ッ…
…はッ…は…ひッ…ッ
うふふ♡
声が漏れてるよミレイユちゃん♡
気持ちよくなってきちゃったかな？
…ッ……ッ…こんなの…ッ
気持ち…ッ…悪いだけです…ッ
コイツは被験者がすぐ廃人になって使い物にならねえって
廃棄された拷問用の試作品だ
オマエみたいなガキがどこまで耐えられるか見ものだぜ
ぜったい…たえて……ッ
…みんなの…ところに…ッ
まだそんなこと言ってんのか
オマエはもう俺らの玩具だってのがわかんねえのか？
おい、濃度をもう少し上げろ
はいはい♡

ひうッ
ひうッ…んぁッ…ッ…♡
…はッ…な…なんれッ…ッ
こ…こんな…ッッ
ぁッ…
違っ…ッ
すごく気持ちいでしょ～？
その『椅子』の体液にはお薬がたくさん入ってるからね♡
…ッ…くすり…ッ！？
…そんな…き…きいてな…ッ
しかも毒の効きにくいお前のための特別性だぜ？
普通の人間なら即死する濃度のモンを仕入れたんだ
感謝しろよ
腰が動いてきたね♡
そろそろイキそうかな？
はんうッ…♡ やぁ…ちが…ッ！？
…ッ…んぁ…ッ…あ…らめ…ッ♡！？
そこ…ッ…いじっちゃ…ッッ！


嫌ッ…きちゃッ…ッ…ッ！？
んぁあああッ…ッッッ…ッ♡！！！
嫌っ!!
へぁぁぁッ♡
きちゃッ♡
ぐりッ
ぷしゃッ
どろッ
ぐりぐりっ
ぐりっ
ぐりっ
ぐりっ

ひッ…ひぁッ…ッ…♡
…あッ……はッ…うそッ……♡
わ…わたし…ッ…
ガキのくせにいっちょまえに潮吹いてやがる笑
お兄ちゃん見てるか？
オマエの妹は触手にクリ弄られて初イキする変態だぜ？
あッ…はぁッ…ッ…♡
い…や…みッ…みないれ…みないれぇ…ッ……
お…おにいちゃ…
我慢してたのもあるだろうけどすごいイキ方だったね♡
実はミレイユちゃんもともとすごいエッチなんじゃない？
お兄ちゃんでオナニーとかしてたのかな？♡
そッ…そん…な…してな…ッ…♡
わたし…えっちじゃ…へんたいじゃ…ッ
ひっ
あッ
ひぁッ
ぶるッ…
ぶるッ…
ぶるッ…
ぐりゅッ
ぐりゅッ
ぐりゅッ


あっ？
つーか何休んでんだ
本番はこっからだぞ
ずるッ
あ…ッ
あ…ッ…え…あ…ッ…
…うぁあ…ッ…うそ…ッ
ぶるるっ
ぐりゅっ
うぁあ…ッ
そんなの…はいる…わけ…ッ！
し…しんじゃい…ます…ッ
大丈夫だよ♡
ミレイユちゃんの腕より太いから最初は痛いだろうけど
お薬もまた濃くしたから朝にはイキっぱなしになってるよ♡
ぐりゅっ
突っ込んだだけでぶっ壊れんなよ
つまんねえからな
ぐりゅっ
ま…まってッ…まってッ…だめ…ッ
と…とめて…ッ
ズルッ
ビクッ

ガッ…ッッ…～～ッ…ッ！？
ッ…～～ッッッ…ッ！？？？

ぐッッ…ッ…んッッ…!!?
…んッぐうッ…ッッ…!?
ぶるッ
うーわ、えっぐ…
調整ミスってねえか？
完全に触手の形に腹膨らんでんじゃねェか
まじで内蔵つぶれて死ぬんじゃねぇの(笑)？
ぶしぶしっ
はッッ…ぐう…い…いッ!
いッ…き…できなッ…ッ…!!?
フェニックスとの合成人間だし
これくらいなら死なないんじゃないんかな？
朝まで放置したらさすがにわかんないけど♡
てかまた血でてっけど
まさか膜も再生してんのか？
だったら無限に遊べんじゃねえか？
が…はッ…らッめぇッ…ッ
し…しぬ…ッとめ…ッッッ

あッ…ッッッ…ッ！？
はうあああああ…ッッッ…ッ♡！？？？
ながッ…ッッッ…ッ！？
でて…ッッッ…ッ！？？？

あッッ…ッ…あッッ…♡！！？
…んッああうッ…ッッ…！？
はッ――おいおい！
コイツ一発目でイキやがったぜ！
マジで変態じゃねエか！
あッ
あぁッッ……もッ…ッ♡
もッ…ゆるひッ…しん…じゃう…ッ
ぶるるッ
すごいねぇミレイユちゃん♡
これならまだまだ『椅子』の強度を
上げても大丈夫かもね♡
しかしなんだ？
俺らに犯されてる時も嫌がってるふりして
しっかり楽しんでやがったのか？
これを見てるお兄ちゃんショックだろうなぁ？
やッッ……ちがッ…そんなのッ
ッ…うそッ…ちがう…ッ♡
心配して損したぜ(笑)
なんか楽しんでるみてーだし
コイツホントにこのまま放置してみっか
そうだね♡
それじゃあボクらは寝るから
ミレイユちゃんは朝まで楽しんでね♡
ぶしゅッ
ぶしゃッ
え…あッ…そんなッ……ッ
まって……まってください…ッッッ

ヴッ……ッ……あ……ッッ……
……ヴッ……ッッ……♡
生きてるかクソガキー？
ってひでぇことになッてんな（笑）
悪いなお兄ちゃんよ――
大事なミレイユちゃんが触手ザーメンの肉詰めになっちまったぜ？
感想はどうだ？
えッッ……ッッ……♡
ッ……ッ……あ……ッ
あ……うッ……ッ……♡
……ぐぜぇ……ッッ♡
あ♡　意識はないけどまだイッてるね？
そんなに気に入ったんなら今日からこれが
ミレイユちゃんのベッドかな♡
たくよ……罰のつもりだったってのに
楽しませちまうとはな

あッ…ッ…やッ…♡！！？
…やんッうッ…おしりも…ッッ…！？
大好きなケツ穴だ♡
さっさとだらしねエイキ顔
お兄ちゃんに見せてやれ
やッッ……イかないッ…ッ♡
こッ…こんなのッ…気持ちよくなんか…ッ♡
ふふ♡　久しぶりの撮影だから
恥ずかしいのかな？♡
まあ恥ずかしいだろうぜ～
お兄ちゃんに言ってやれよ
『ミレイユは二穴セックス大好きな
雌犬になりました』ってな(笑)
…ちがッ…なってッ…ません…ッ…♡
あぅんッ…やめッ…奥…ッ♡
…ッッ…つかないで…ッ…♡
そんなエロい声出しといて説得力ねーんだよ
いつもみたいにおねだりしてみろよ♡
ぶるっ

あッッ…ッ…やッッ…ッ♡
…らめッッ……ッッ…！
ふふ♡　そんなに締め付けたら
でちゃうよミレイユちゃん♡
ほんとコイツどれだけ犯しても
ゆるくならねーからな
便器としちゃ上等だぜミレイユちゃんはよ
いッッ……いくッ…くりゅッ♡
みッ…みちゃやぁッ…おにいちゃ…ッッ…ッ♡
ま、頭の方はすっかりゆるんじまってるがな…
おらイけっ――イけっ！

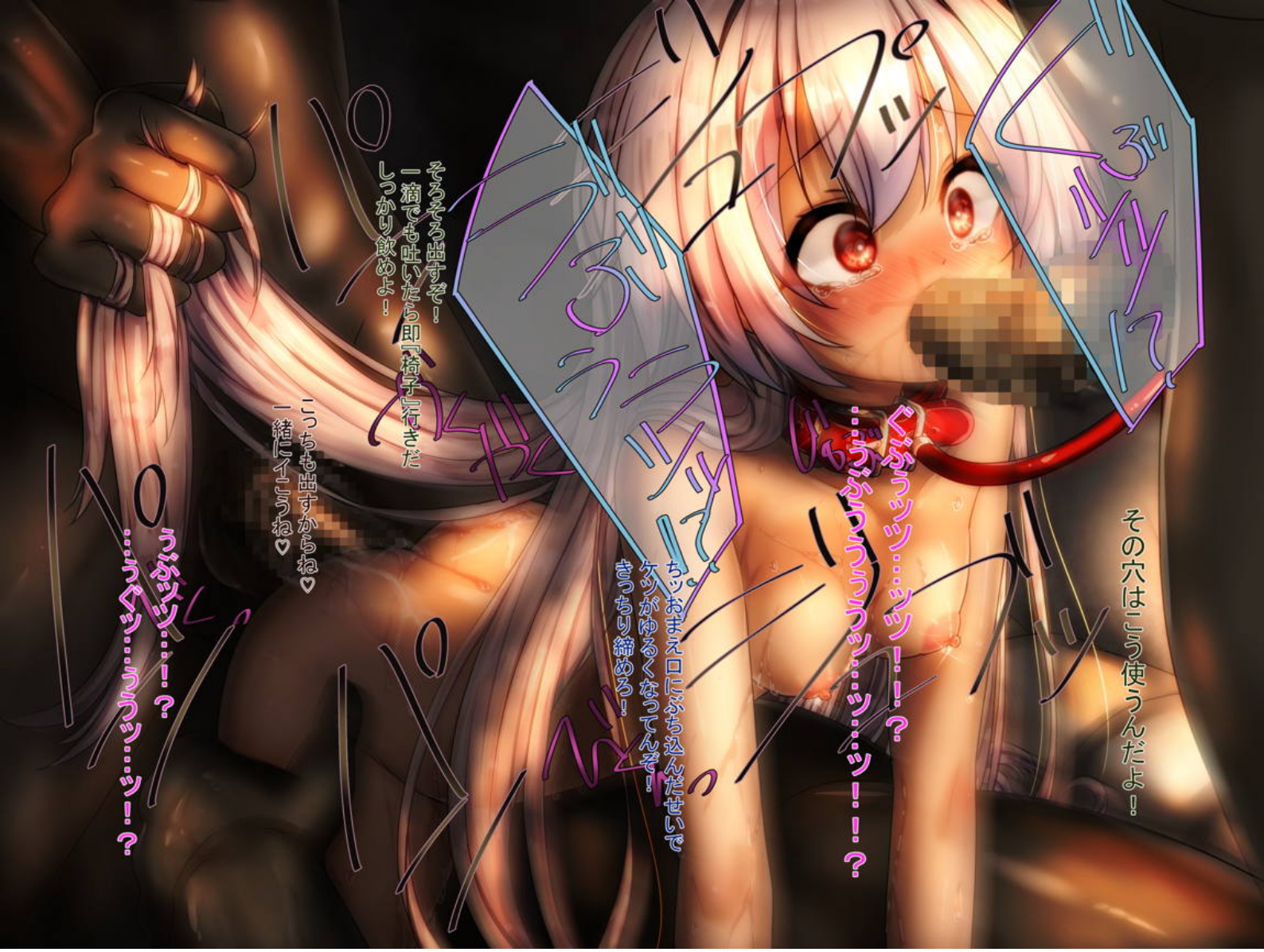
あぅッッ……ッ～～ッ～～……ッッ♡!?
ッッ……ッッ♡!!
なかッ……ッッ……でてッ……ッッ♡
んぁあ……ッッ……ッ♡

ふふ♡ お兄ちゃんの前で
白目剥いてイッちゃったねぇ♡
ボクは好きだよおミレイユちゃんのイキ顔♡
…あ…ッッ…はッ…ッ…ッ♡
ッあ…こんな…ッ…いやぁ…
俺なら妹がこんな下品な
イキ顔晒してる時点で縁切るぜ
大好きなお兄ちゃんもお前のこと
もう嫌いになったんじゃねぇか？
あッ…そん…なッ…わたし…ッ…
お兄ちゃんに…嫌われ…ッ……
確かに結局誰も助けに来ないもんねェ♡
もう見捨てられちゃったのかもね
かもな(笑)
まあもう中古だしな♡
こんなきたねぇ便器なんてだれが取り戻しに来るんだよ？
ッ…あ…うあッ…わたし…がッ…
もう…よごれ…てるから…ッ……？

ぐだぐだ言ってないでいつもみたいに
俺のも舐めて綺麗にしてくれよくれよ♡
…むぅッ…ッッ…もッ…ッ…ッ
ッ…嫌…ッ…です…
あ？　なんだコイツ…完全に折れたかと思ったら
逆らいやがった
あらら♡　逆にちょっと立ち直っちゃった？
お兄ちゃんの話したからかな？
それともフェニックスって心も再生できるのかな？
面白いね♡
も…う…ッきらわれ…たくない…
わたし…みんなのところに…
拉致ってきた頃思い出すぜこの感じ
最近従順すぎて張り合いなかったからな♡

たくめんどくせぇな――
てめぇ今日からまたあの『椅子』で
眠りてえのか？
…ひ…ッッ…あッ…ッ…ッ
ッあ……ッ…わたし…
眠るってお前――
ありゃあただの気絶だろ…（笑）
それだけしやねエぞ？
なんだ？　豚にでも犯されてえのか？
それとも馬か？　蟲か？
人間様が犯してやってるだけ幸せだと思えよ雌犬が
…うあ…ッ…あッ…ッ…ッ
ッあ……ッ…あ…
あ―あもったいない
いきなりそんなに脅したら
可哀そうだよ♡
わかったらさっさと奉仕しろよ

ちゅぷっ
ぷっ
ぱくっ
ぶるるっ
ぱくっ
ぱくっ
ぱく


その穴はこう使うんだよ！
ぐぶっッッ…ッッ！！？
…うぐぐっうっうッ…ッ…ッ！！？
ちッおまえ口にぶち込んだせいで
ケツがゆるくなってんぞ！
きっちり締めろ！
そろそろ出すぞ！
一滴でも吐いたら即『椅子』行きだ
しっかり飲めよ！
こっちも出すからね♡
一緒にイこうね♡
うぶッッッ…！？
…うぐッ…ううッ…ッ！？

ぶぶぶ

げほッ
げほッ
げほッ
げほッッ…ッ…げほッッ
…ッげほッ…えうッ…ッ♡
げほッ…ま…っつれ…くらさ…
…もう…一回…ごほうし…します…ッ
だから…ッ…ッ
ちっ言ってるそばから
全部吐きゃがって
よっぽどあの『符子』嫌なんだね～♡
まあもう一回チャンスあげなよ♡
せっかくこんなにおねだりしてるんだからさ♡
しゃあねえな―
ぶるる♡
ぶるる♡
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ぱっぱっ

ブッ
ぶろろ…
ぶっ
ぴゅっ
ぴゅっ
ぴゅ

全ての映像を見終わって――その場に尻餅を付いた
怒りも憎しみももう湧いてこない――
ただ信じられなかった――あのしっかり者の妹が――

――ずっと一緒に過ごしてきた家族が家畜のように扱われる光景が

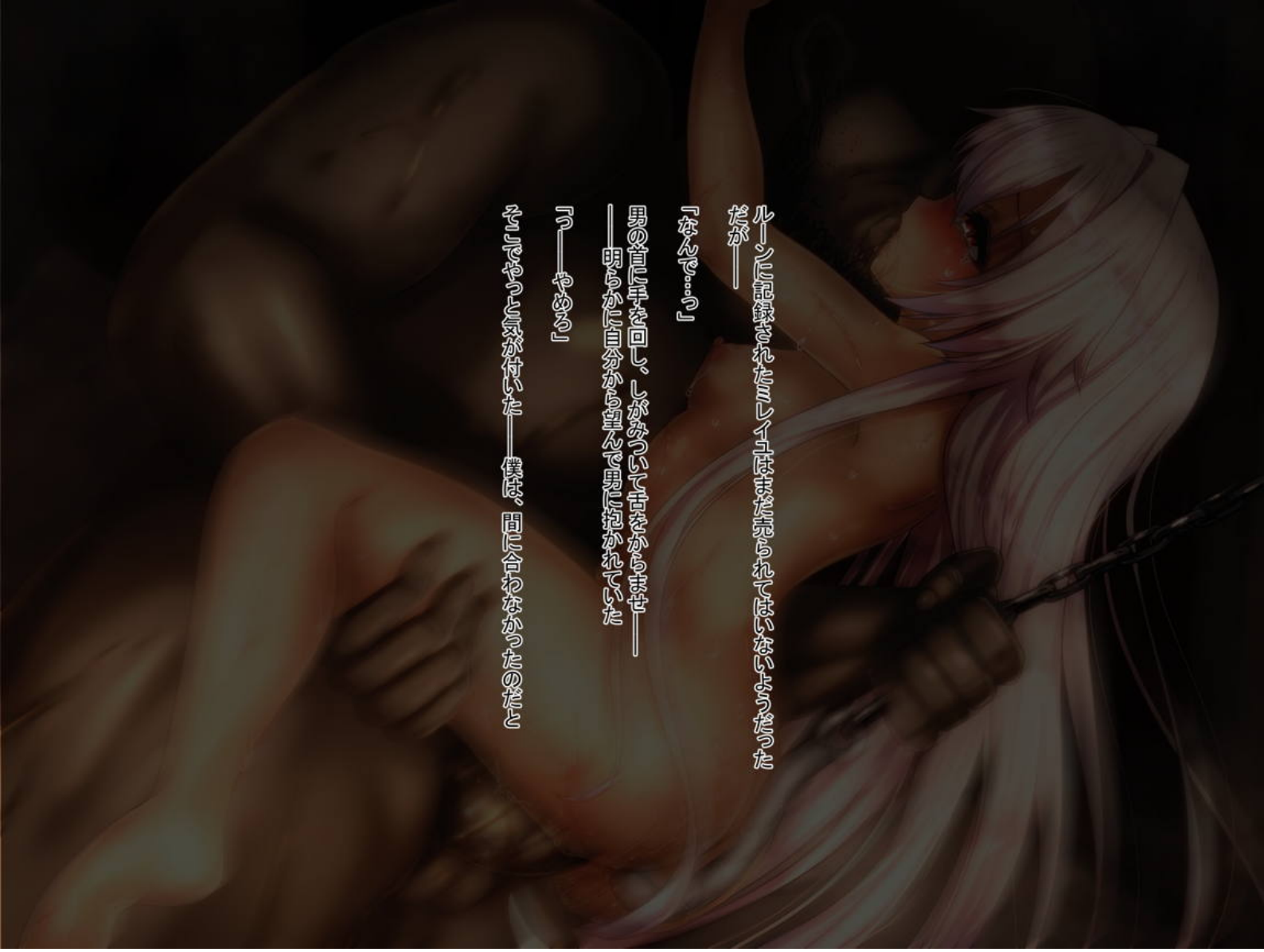
手が震える――
ミレイユがあんなになるまで助けられなかったのは僕だ
だから遅すぎるけど――助けるんだ
もう一刻の猶予もない――

アイツらは人身売買を生業にしている
ミレイユに懸賞金が掛かっているのはアイツがフェニックスとの合成体だからだ
もし売られてしまえばまた昔のように人体実験のモルモットにされてしまうだろう

そうなる前に助け出すんだ
飛行島のみんなの力を借りればきっと、見つけられる――

しかし思うようにはいかなかった
『記録のルーン』からも奴らの足跡は辿れず――
結局何一つ手がかりが無いままさらに一月が過ぎた頃
再び僕の下に『記録のルーン』が届けられた――

んッッ……ん……♡ っっんむ……ッ……♡
……んッ……ッ……ッ
ちゅぷぷぷ
じゅるる
じゅぷ♡
んむッ♡
んむッ♡
じゅぷ♡
じゅぷ♡
じゅぷ



ルーンに記録されたミレイユはまだ売られてはいないようだった
だが――

「なんで…っ」

男の首に手を回し、しがみついて舌をからませ――
――明らかに自分から望んで男に抱かれていた

「っ――やめろ」

そこでやっと気が付いた――僕は、間に合わなかったのだと

ぷはぁ…ッ…♡
なんれぇ…ッ…♡
……おまんこ…も…やめるのおッ……ッ♡
ぷはぁ
ちゅぱっ
ぺぢゅッ
ぢゅぱぢゅぱぢゅぱ

ほらミレイユ♡
お兄さんにちゃんと挨拶しないと
あん
ちゅぱっ
ぺろっ
ぺろっ
ぴくっ
えへへ…ッ…♡ おにいちゃ…ッ…♡？？
……わらひ…ごひゅじんしゃまと…ッ……ッ♡
…けっこん…しゅるのお…ッ…♡
ほらミレイユ
ボクのどんなところが好きか言ってごらん？
ぷるぷる
あんッッ……♡ …ごひゅじんしゃま…はあッ…♡
……おちんぽ…おっきくてぇ……ッ♡
しゅごく…っ♡ きもち…いいのお…ッ♡
だからぁ…おにいちゃ…もうしんぱいしないれぇ…ッ♡
ぴくっ
ぷるぷる
あーこんな感じでミレイユとは毎晩
セックス三昧で幸せにやってます♡
これからもボクがミレイユを『幸せ』にしてあげるから♡
安心してね――お兄さん♡

それじゃミレイユ♡
お兄さんに僕らがラブラブなところ見せてあげようよ♡
ぺろぺろ
あぁッ♡
んぇッ…ッッ…♡ あん…うッ…♡！？？
いぎなりいッッ…おひり…ッ！
グリグリい…ッッ……ッ♡！！？
あんッ♡
最近はこうやってフックで直腸こねられるのに
嵌ってるんだもんね♡
んぎッッ……♡ …ごひゅじんしゃま…はげひ…♡
……いぐッッ…いぐいぐうッ……ッ♡
ぶりぶりぶり

はんッ♡
ちゅぷ
ちゅぷ
たくしゃんッ♡
なかに♡
ボクの子共ほしい？
はむぅッ……ッ♡ ん……ッ♡
なかに……あちゅいのお……♡
いっぱい……ッ……ぐだひゃいいい……ッ！
はいッッ……♡ ……たくしゃん……ほしいいッれす……♡
……あかちゃんの……おへやぁ……ッ……おかしてッ……ッ♡
はらませてえッッ……ッ♡
ぶるるッ
ぶるるッ
ズッ
ズッ
ズッ
わかったわかった
それじゃあ今日こそ孕ませもうね♡

おッ♡
ぎたあぁぁぁッ♡
おちんぽッ♡
おッ…ッッ…♡ おちんぽ…ッ♡
ぎたあぁぁぁ…ッッッ…♡
—うッ♡
今日はすごい締め付けだね♡
もしかしてお兄さんに見られて興奮してる？
おッ…ッッ…♡ おぐ…あたってッ…ッッ♡
いぐ…ッッッ…ッも…イッてりゅうッ…ッッッ♡

ほら――♡
誓いのキスをしようね♡
♡…ジュ…ジュッおおぉぉぉぉ…ジュッおおぉぉぉぉ…ん
♡…ジュ…ジュ…ジュ…ジュ…ジュ…ん
そろそろいくよ♡
ママになると見てもらおうねェ♡

ん…ッッ…むぅ…ッッ♡
♡ジュ…ッッ…ッッ…ッッ…ぉ……
♡ジュ…ッッ…ッッ…ッッ…ぉ……
ぢゅるるるっ
ぢゅるるるっ
ぢゅるるるっ
ん…ぉッ!!
ぢゅるるるっ
ぢゅるるるっ
ぢゅるるるっ

えへッ
おにぃちゃ…ッ
おにぃちゃッ…ッッ…♡ わ…たし…ッ…♡
まら…いっちゃッたぁ…ッッッ…ッ♡
みられるの…っ…いいかもぉ……♡
おらイっちゃったまぁ…ッ♡
ちゅぱッ♡
うぉ♡ 搾り取られる♡
締めつけ過ぎだよミレイユ♡
ぐぷッ
ぐぷッ…
ごひゅじんひゃまぁ…ッッ…♡
たりないよぉ…もっとぉ…ッッッ…♡
まったくホントにセックス好きになっちゃって♡
今日も朝まで子づくりしようね♡
ぶるるッ
えへへッ…ッッ…♡ ママに…してぇ…ッ♡
しあわせに…してぇ…ッ♡

あんッッ…お…っっあん…ッ…♡
……あへぁ…ッ……ッ♡
——たくまた朝までヤッてたのかよ
豚みてーな喘ぎ声がうるさくて起きちまったよ
つかなんだその腹——ザーメンで膨らんでんのか？
どんだけ出してんだよ
だってミレイユちゃんが離してくれなかったんだもん♡
——そいつの買い手が見つかったぞ
今度のは上客だ
いい加減そいつ金にすんぞ
え——まあしょうがないか…
ごめんお兄さん、ミレイユちゃん幸せにできなくなっちゃった♡
せめて僕の子共孕んでるといいなぁ…
離れても愛してるからね♡

そうしてミレイユはどこかへと売られていった――

僕はあの、売られる直前の幸せそうだったミレイユの映像を
他の誰にも――カティア様にさえ見せられなかった

探そうとしても犯されているミレイユの笑顔が邪魔する――

手がかりも途切れた
送られてきていたルーンもあれから届かない

もう僕にはどうしようもなかった
たった一人の妹すら見つけられないくらい、この世界は広すぎるんだ

あきらめかけていた時――僕の下に新たなルーンが届いた

ミレイユをお買い上げいただき
ありがとうございます…ッ…♡
ご主人様…ッ……ッ♡
パッ
来てくれてありがとう
いきなりでびっくりしただろ？
キミを持っていた彼らは僕の知り合いでね
無理いって君を売ってもらったんだ
ぶるるっ♡
聞いてます！
前のご主人様と結婚できなかったのは
残念ですけど…そのかわりご主人様が
ミレイユを一杯愛してくれるって…♡
ぶるっ♡
ふふ――
そうだね…愛してあげるよ

ミレイユはやっぱり笑顔だった――
乳首と性器にピアスを開けられ、下品な服を着せられ
売られた――なのに――喜んでいる

しかしそれを悲しんでいる暇はない
これは貴重な手掛かりなんだ――

幸いこの男は研究者ではなくただの好事家のようだ
研究機関以上の金と『記録のルーン』での記録を条件にミレイユを買ったらしい

それならまだ連れ戻せる可能性がある――

フェニックスのウィータさえ無事ならまだ
体も心も元に戻る可能性がある――

ところで話では聞いてるんだけど
君は本当にフェニックスとの合成人間で
強力な再生力があるのかい？
そうですね！
フェニックスのウィータが私の体を治してくれてます！
だから処女膜だってありますし、
おマンコもキツくて気持ちいいですよ♡
お気に召さなければピアス穴だってふさがります！
へえ――すごいね
ちょっと試してみてもいいかな？
はいミレイユの体はもうご主人様の
ものですので♡
ご自由にどうぞ♡
それじゃ――
これを付けてくれる？
ぱくっ♡
ぢゅぢゅっ♡

それじゃ足を開いてみて
ん…ッ♡ んぅ…ッッ♡
んむぅ……ッッ♡??
おいおいまだ何もしてないぞ
おまたをそんなに濡らして…
いけない子だな
ふぅん…ッ♡ んむぅ…ッッ♡
んぅ……ッッ♡
お仕置きを期待してるね
仕方ないな――いくよ
ぺちぺち
ぱしぱし
ぱちぱち
ぱしぱし
ぱしぱし
ぱしぱし

おぐッッ…お…っぐぅぅッッ…ッッ♡！！？
……んっ……ッ……ッぐぅぅッ♡！？
ビクッ
ビクッ
ビクッ

こら、おもらしなんてダメじゃないか
お…ッ♡ おぅ…ッッ
んむぅぅぅぅ……ッッ♡
どうだい？
本物の鞭のお仕置きは？
玩具と違って死ぬほど痛いだろう？
んぐ…ッ♡ んぅ…ッッ♡
んぅ……ッッ♡
気絶しないだけでもすごいのに
甘い声出しちゃって…
君はもう完全に快楽中毒だな…

ハッ…ッ♡ ハア…ッッ
あ……いだい…れすッッ♡
ごひゅじん…しゃま…♡
おお？ でも――
すごいすごい！
あの傷でもこんな瞬時にふさがるんだね
ぶるっ♡
あ…ッ♡ いきなり…ッッ♡
こんなあ……ッッ♡
口では言うけど
軽くイッてるじゃないか君
あ…だ…ッ♡ だってえ…ッッ♡
からだがあ…かってに…ッッ♡
もしかして君の体の不死鳥が
苦痛を快楽に変換して君の心を守ってるのかもね
健気ないい子だね
これならかなりの無茶がききそうだ

ひッ…ッ…あ…ッ!??
な……なに…ッッ…!?
ああ、さすがにこれには嫌な顔をするんだね
実は僕――こういう蟲を育てるのが趣味なんだ
あ…ッ…え……ッッ…?
ふふ――君を買ってよかったよ
普通の子だと苗床にしてもすぐ死んじゃうからね
あえ…え…ッ?
や…そんなの…ッ
大丈夫だよ
君くらい淫乱ならすぐにこの子たちとの
交尾も楽しめるようになるよ

んあッ…ッッッ♡　あッッ…ッッ♡
はうあああああッッ……ッッ♡
こら足を閉じちゃダメ
また鞭打たれたいの？
あぎぅッッ…ッ
きもちわる…はいっれ…ッッくりゅッ♡
やぁあッッ…ッッ♡
心では嫌がっても体はもう馴染んできたかな？
気持ちよさそうに見えるよ？
ふふ――これはいい苗床が造れそうだ――

ミレイユを購入した男がただの好事家という印象は
間違いだった――

いままでミレイユを捕えていた連中は
売り物のミレイユの価値が下がるような
致命的な痛めつけ方はしなかった――

だがあの男は違う
きっとアイツはミレイユを容赦なく殺して蟲の餌にする

本当に時間がない――
男の屋敷は仲間たちの協力で突き止めた
今度こそミレイユを取り返しに行く――

――そんな僕の下に最後の『記録のルーン』が届けられた

ぐぅッ…ッッッ　ああッッ…ッッ
やめ…たすけッッ……ッッ
あ？　なんかおかしくねぇか？
アンタの蟲ごんだけ孕んで
なんでまだコイツ意識あんだ？
面白いだろ？
だから君を招いたんだよ
これを見てほしくてね
なんか売った時より反応もまともになってるぜ？
休ばびでぇもんだがな
実はね――何回か連続で休ませずに
蟲を産ませ続けていたらさすがに死んでしまってね
でも――リレイズというのかな？
ほうっておいたら生き返っていたんだ
そしたら精神も少し元に戻っていてね
たすけ…
それを何回か繰り返してみたんだ
そしたら生き返るたびに精神がより過去に戻っていったのさ
走馬灯みたいな物かな？　面白いだろ？
いや…ッ　くるしッッ…ッッ
なんれ…こんな…ッおにいちゃ…ッ

絶句する――

つまり男は――こいつはミレイユを何度も殺して
そのたびに生き返るミレイユの反応を楽しんでいる――

いくらフェニックスでも――ミレイユのリレイズは無限じゃない

こんなこと続けられたら――いずれ

いぁあッッ…ッッッ　うまれッッ…ッッ！！？？
やら…やらぁッッ…ッッッ！！
しかもこの子は今
自分の体に何が宿っているのかも知らないんだ
これくらいまともな精神で僕の蟲を産んだ
時の反応は見ものだよ
はは―…うっわ
これはエグイぜ…さすがに同情するわ
普通に死ねた方がましだったな…
がッ…ッあッッ…ッッ
やらぁッッ…出てきちゃ…ッ
ビクッ
ビクッ
ビク

あぎッッ…ッッッ　がッッ…ッッ！！…？？
んあああぁぁぁぁぁぁぁぁ……ッッ！！…？？
あぎッッ
ビッッ
ビッッ
ビッッ
ビッッ
ビッッ
ビッッ
ビッッ
ビッッ

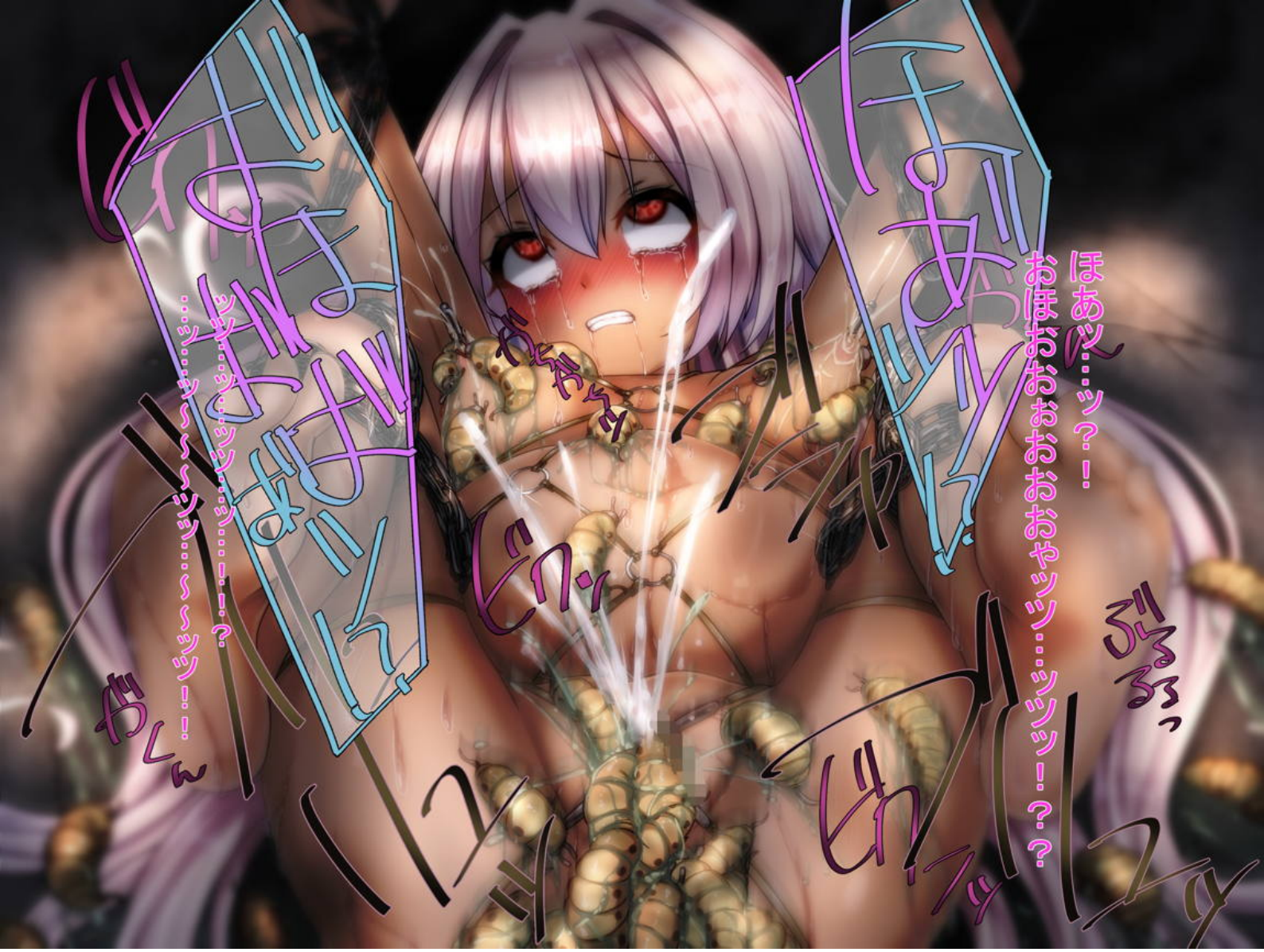
あ…え…ッ？　…あ…ッ…？？
…あ…ッ……ッ？
あ…？
あ…
ピクッ
ピクッ
ピクッ

いやぁ…ッ …も…ッ…
…やぁぁぁぁぁ…ッ……ッ
なんで…わたし…どうして…！
ほら――状況を理解したみたいだよ
今回は精神崩壊で死ぬことはなかったみたいだね
いやぁ…
うそ…なンッ
お乳…ッ…すわないで…ッ…
…あッ…お腹うごいて…なんでこんなッ…
もッ…産みたくない…ッ
こりゃあコイツの頭の中は俺らに拉致られた
直後くらいか？
哀れなもんだ…

らめぇッ…ッ？！　らめッッ…ッ！
そこ弄っちゃ…ッ……なにか…きちゃうッ…！！
はは――見なよ！これ面白いだろ？
精神は元に戻っても体はほとんど前のままさ
体を蟲が這いまわるだけでイキまくるんだ
らめぇッ!!
らめッ!!
らめらめッッ!?
もう終わってんなコイツ―
ぶるッ…
らめッッ…ッらめらめらめッッ…ッ
ッッ…ッらめぇッッ…ッらめッッ…ッ

んぎいイッッ……ッッ……あッ……！！？
……ッ……ッッでりゅうッッッ……ッッ！！？
ギィィ
ブルルッ
みゅ
ビクッ
ビクッ
ビクッ

おお――絶頂と同時に出産かこれは初めてだね
うあぇッ…ッ？！ とまらにゃッッ…ッ！
ああッッ…ッッ！！
しかもその出産でまた絶頂してるね？
これは面白いな…一度こうなったら
どうすれば止まるのかな？
うあッッ…あッ…あッッ…ッ…！！？
…もッ…ッでてきちゃらめぇッッッ…ッッ！！


ほあッ…ッ？！
おほおおおおおおやッッ…ッッッ！？？
ぎゅるるっ
ぎゅるるるっ
ビクッ
ビクッ
ビクッ

お……ッ♡　…おぁ…ッ…
…お…ッ……ッ♡
あー子宮が完全に飛び出しちゃったね
でも今回はよく死ななかったね？
でもまぁ――さすがに潮時かな
リレイズもあと一回が限界って話だし
いい加減催促されてるしね
まだ価値のあるうちにさっさと
資金にしてしまおうか

んぉ……ッ♡
♡ッ……ッ～～～……
ふふ――
また意識ないのにイッてるね
ホントにいままでありがとうね ミレイユちゃん
君が生んでくれた蟲はこれからも大事に育てていくからね

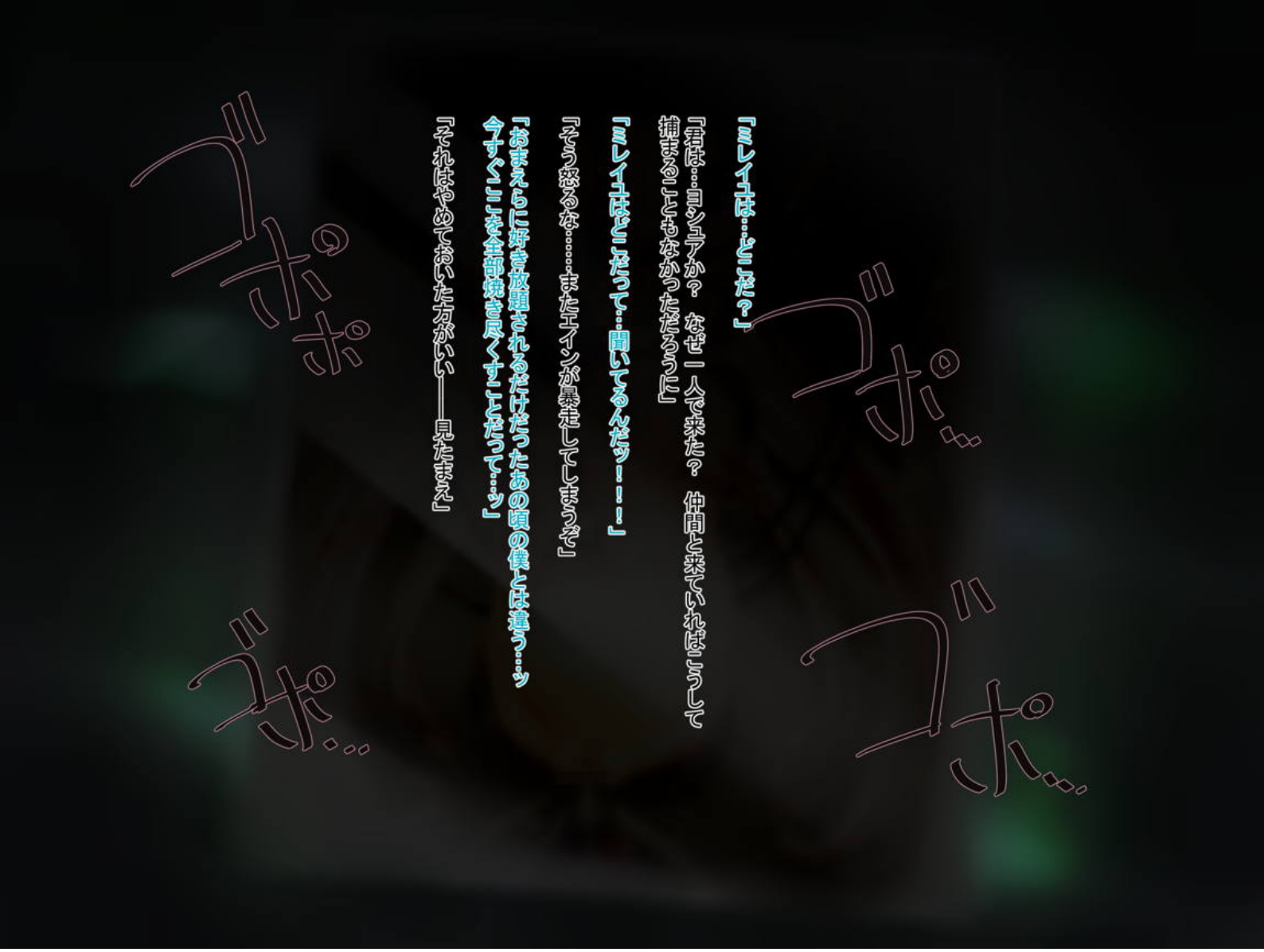
僕らは好事家の屋敷を襲撃した――

好事家の男を捕え、蟲を焼き払い
苗床として囚われていた女性たちを解放した
――だがそこにミレイユは居なかった

男を問い詰めると――男はあっさりとミレイユの売却先を白状した
――その場所なら知っている

かつて僕らにドラゴンとフェニックスを合成した研究所――
そのうちの一つだ

気が付いたら走り出していた
みんなの制止する声も、聞こえなかった


「ミレイユは…どこだ？」
「君は…ヨシュアか？　なぜ一人で来た？　仲間と来ていればこうして捕まることもなかっただろうに」
「ミレイユはどこだって…聞いてるんだッ！！！」
「そう怒るな……またエインが暴走してしまうぞ」
「おまえらに好き放題されるだけだったあの頃の僕とは違う…ッ今すぐここを全部焼き尽くすことだって…ッ」
「それはやめておいた方がいい――見たまえ」
ゴボ…
ゴボ…
ゴボ…
ゴボ…

「――あ……」

「こんなところで力を使えば君の大切な妹も巻き込んでしまうぞ？
こんな有様だが彼女はまだ生きている」

「…う…ああ」

「随分と痛めつけられたのだろうな。フェニックス――ウィータといったか――
の力はほとんど残っていなかった」

「そしてその瀕死のミレイユの命を繋ぎ止めていたフェニックスは我々が既に回収した」

「彼女はもう」この生命維持装置の中でしか生きていけないよ」

「彼女は貴重なフェニックスをその身に宿して生きて居られた貴重なサンプルだからな
標本として生命の維持は保障しよう」

「――殺してくれ……」

『それはできないな――君もまた我々にとって貴重なサンプルだ』

「…そうかよ」

『安心したまえ――昔のよしみだ』

『君も標本にしたら――妹の隣の容器で保存することにするよ』

「――……」

とあるクエストの折、不意打ちを受けたミレイユは
目を覚ますと見知らぬ場所に監禁されていた。

「ミレイユちゃん、やっと起きた？
ふひひっ待ちくたびれたよ～」
はなして!!
「――ほっ……者しっ……ぇ？
な、なにこれ……」
「――そんな……嘘、ウィークの子が
嘘よ、ありえない……魔力も――っ」
「無駄無駄～
闇特製の魔力弛緩剤を打ってるんだ
キミは一週間は普通のか弱い女の子なんだよ」
「――嫌っ……離してください
どうしてこんな――っ」
「キミには懸賞金がかかってるからね
僕らの目的はお金だよ～」
ガッ
ギリ
ギリ
ギリ
ギリ

「――ひっ」
ひっ!
「……何それ……」
「でも僕の目的はキミ。」
「早い者勝ちっていうのが
僕らのルールなんだ
――どうしてミレイユちゃんが起きるのを
待ってたと思う？」
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ…
「――ひっ……嘘――っ！
そんなの入らな――っ！
いやです――っ！ やだっ！」
メリメリ

「あがぁぁぁ

「ひぎっ
お腹苦しいって
動けない
「もうちょっと奥まで入りそうだねぇ
こうやってぐぐっと――」
ビクンッ
「らめぇ
それ以上は
おくに
ふれすぎ――っ」
ビクッ
「おっおっわかるかなミレイユちゃん
今赤ちゃんの部屋に届いてるよ」
「――おく――っ
もう入りません――っ
おく奥ばかり――っ」
「――ふひっ
普通の子はコレやると壊れちゃうんだけど」
ブリッ
ブリッ

「プエニックスの力を持ってるミレイユちゃんなら大丈夫だよね？」
「ひぃ……嫌ぁ……お願いします――っ ちょっ 無理なんですっ――」
「ぶひっ！ それっ！ 入れっ！ 入れっ！ 入れっ――！」
「おっ――おっ おぉぉ――っ いぁっ――ダメ ダメんなっちゃいれぇ！ 赤ちゃんの部屋入れちゃうっ――っ！」
「おらっ！ 入れっ！ 入れ！」
「無理！ 入らない――っ！ 入らないれすっ――っ」

「――ぶひっ
入っちゃったねえ
子宮の入り口がカリ
をつかんで離してくれないよ♪」
「――んー
根元まで入ると別格の気持ちよさ！
中がビクビク痙攣してイッちゃいそうだ」
「――ぁぁ……やめて
動いて……ぬいて……」
「――はぁっ！――はぁ！
ぁ……そ……？」
ビクッ
ビクッ
ボコッ
プシャッ
ボコッ
ボコッ
ボコ

ガク
「ふひっ――もうっ
せっかく愛し合ってるのに
ミレイユちゃんはつれないなぁ♡」
ガクッ
ガクッ
ビクッ
ビクッ
「もっと優しくしてほしい？」
ガクガク
「――や、やさしくしてください……
おねがいします……っ」
グリュッ
「――う――ぐ――っ
――い、ぎぶ……最後までもたない」
ビクッ
「仕方ないなあ
じゃあゆっくり抜くからね
力抜いて」
「――うう……っ
はい……っ
うう、ぎぶ……――」
ズルル…

ビクッ
ガクッ
「ーウソ(笑)」
ガクガク
「――ぶひっ酷い顔だよお
せっかくの美少女が台無しだねえ」
ビクッ
ガクッ
「――ひ――……ぶぅ
……ぶっ。
うぎ――っ」
ビクッ
ガクッ
「――ぶひっ
じゃあチ○ポしごくよ~」

ガクン
ひぎぃッ!
おぉぉッ!
「――ぉ――ぉ――っ――ぉ――っ――ぉ――っ

ビクッ!
「――ぉ――っ！　ぉっ――っ！
いいぞ！　お腹を――っ！
なかにださせる――っ！　ぉっ！
あかちゃんのぉ、ぜんぶ――っ！」
ぶびっ
「――ぉひい締まる♡
子宮満タンにして僕のお嫁さんになれ――っ♡」
「――あぁぁぁ――っ！　きぼっ――っ！
まだ出てる――っ！
ぴくぴくするお腹の奥にぶっかけられる――っ！」
「――ぅぅ♡
子宮に精液搾り取られるっ
ぶふっ――そんなに僕の子供産みたがったの？
うれしいなあ♡」

「――っ――はぁ――っ――うぐぅ――ぴくぴくっ――ぴくぴくっ――ぴくぴくっ

ビッ
おぉッ!!
「――とりあえずもう一回じゃ♡」
ボゴォッ
ぁぁぁぁッ
「――なんれー――なんれすかー――ぁ――ぁん――っ――いぁぁ――っ――ぁひゃ――っ――」
「おっちらんじゃないんれすかー――ぁ――ぁん――っ――」
ホラッ
「――何言ってるの♡
まだ始まったばかりだよ
ミレイユちゃんにも
気持ちよくなってもらいたいしね♡」
「――ぁひっ――ぁん――っ――
ぇぇらぁ――いらないぃ――っ――
ぁきぃぃ――っ――」

おぉぉぉんッッ
おぉッ
ビクッ
ドクッ
ビュルルルッ
ビクッ
「――ぶひひっすごい声っ♡
ちょっとイッちゃったねぇ♡
ミレイユちゃん素質あるよ」
「――うっうっ♡
ぶひ――っ――また出る～
メスガキチ○ポ宮ま○まぜる！」

「――ぶひひっ
ザーメンお腹に溜まって
妊婦さんみたいになっちゃったね
すっかり中出しでイククセが付いちゃった♡」
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ボコォ…
プピュッ
「――しゅごいぶひっ――っ
お腹ブクブクぶっとくなっちゃう――っ♡
おにいひゃん――っ――ちょっ――
もっとひょちょくひてよ――っ♡」
パン
パン
パン
「――ぶひっ
かわいい妹の頼みだから仕方ないね♡
おねだりしてご覧？」
「――おにいちゃんのイボイボ○ポ
ミレイユのエッチな穴っぽんぽん
くしゃいザーメンぶちまけて
孕ませてくらさいい――っ――!!」
「よくできました♡」

「――くふふ！
搾り取られるぅ
ほんとにミレイユは僕のチ〇ポが好きだなぁ」
「――――ぉひっ
妹ザーメンタンクに中出し！」
イッぎましたぁ♡ラブッ♡
おぉぉぉ！イグッ！！
ビュルルル

「――たくっ
躾てもいいとは言ったが壊せとは言ってねえぞ、もうガバガバじゃねえか」
「――これだからお前と仕事すんのは嫌なんだよ
商品の価値を下げちまう」
「――ふひっ
だったらミレイユちゃんは
僕が飼っていい？」
「――残念だったな、
今度の依頼主は「いつが生きてりゃいいんだとよ
じゃなきゃてめえみてえの雇うか」
「――ざーんねん
じゃあまた別の子に
相手してもらおうと♡」
「――ふひっ
早い者勝ちって言ったでしょ」

ミレイユ

人買いに売られたミレイユは
闇の勢力の下部組織である研究施設に
引き渡された。

「――画面越しに失礼するよ
体調はどうかな？」

ヤっ

「――あ、あなた一体
は、離してください――っ！」

は、離して!!

「――これは驚いた
あれだけ痛めつけられていたにもかかわらず
体は健康そのもの
精神の動揺も正常値の範囲内に戻っている
大した回復力だ」

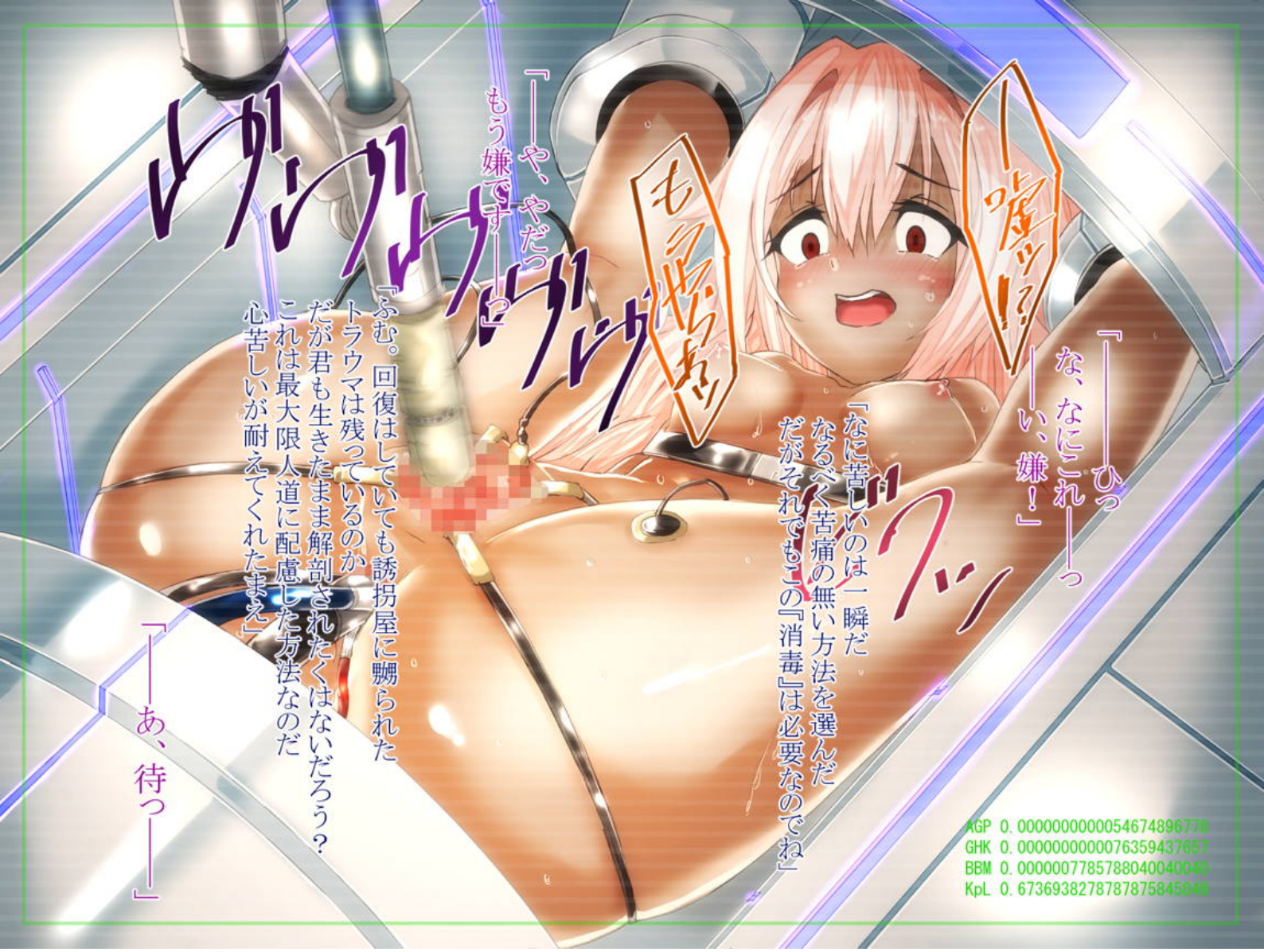
「な、何を言って――っ」

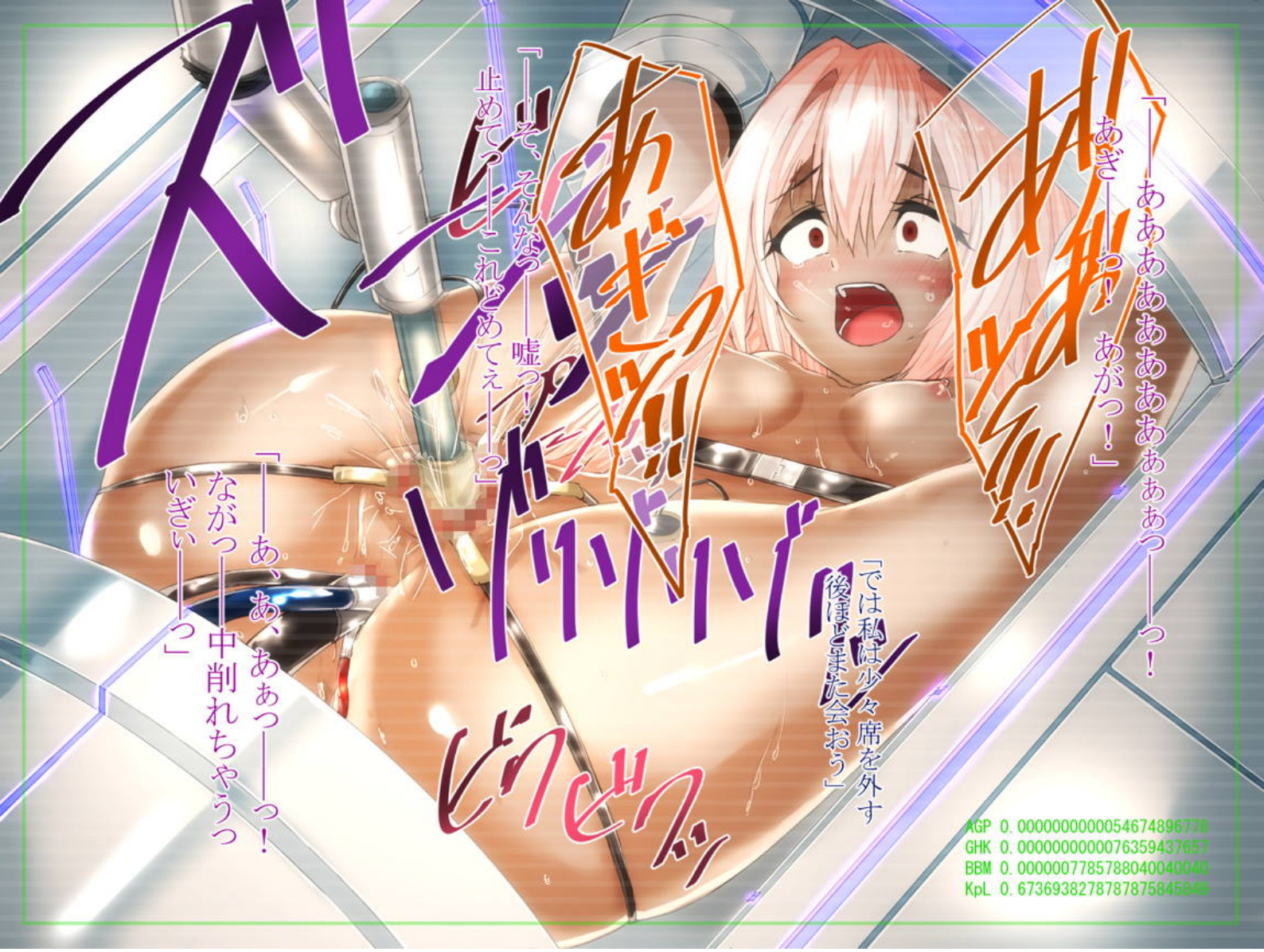
「なに、私はしがない研究者でね。
君の中のフェミックスを回収するのが役目なのだ」

「――そんなっ
こんなことやめてください――っ」

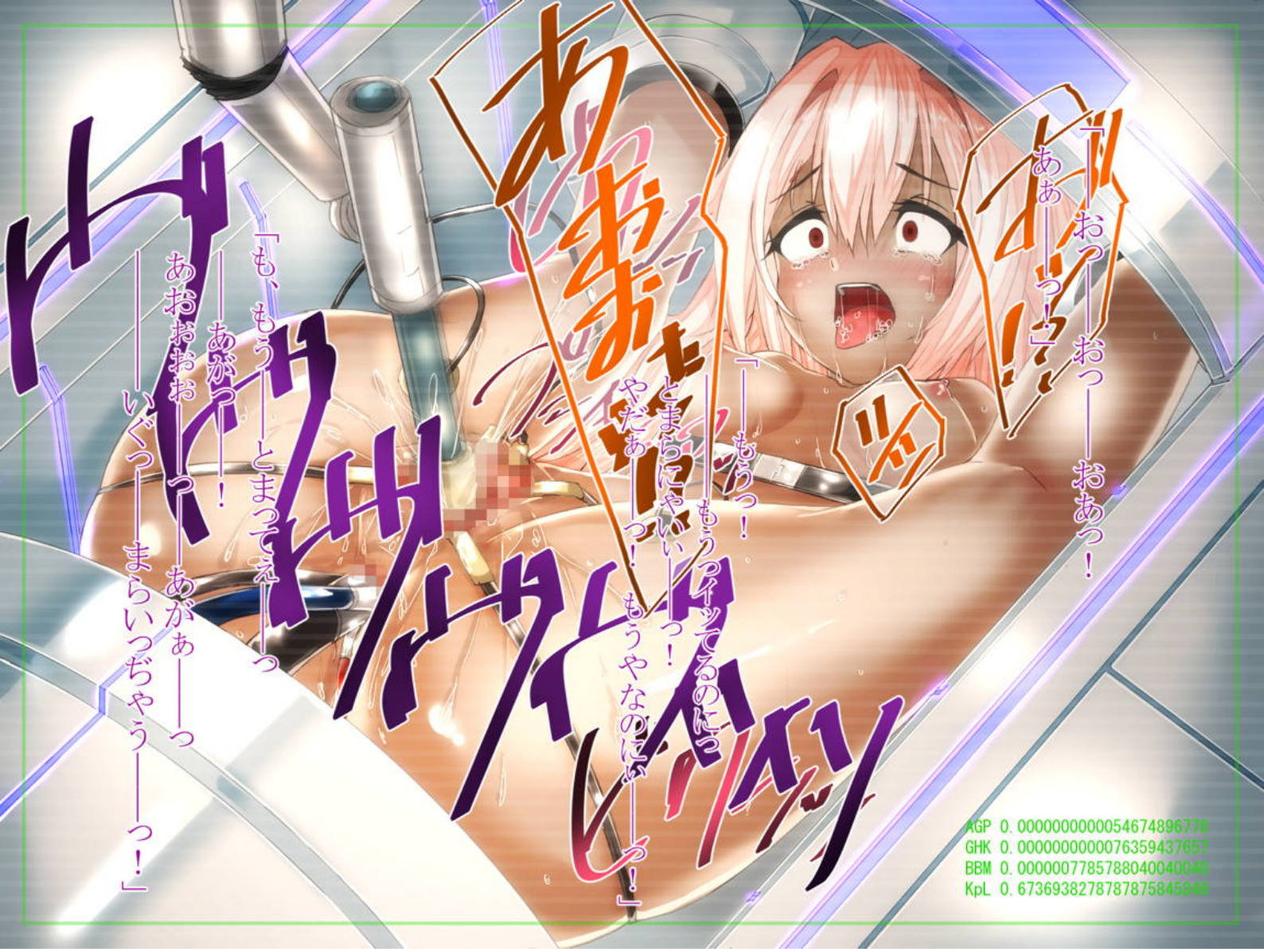
「これなら問題ないだろう
では始めてくれたまえ」

AGP 0.0000000000054674896778
GHK 0.0000000000076359437657
BBM 0.0000007785788040040040
KpL 0.6736938278787875845848


「――ひっ
な、なにこれ――っ
――い、嫌！」
「なに苦しいのは一瞬だ
なるべく苦痛の無い方法を選んだ
だがそれでもこの『消毒』は必要なのでね」
「――や、やだっ
もう嫌です――っ」
『ふむ。回復はしていても誘拐屋に嬲られた
トラウマは残っているのか
だが君も生きたまま解剖されたくはないだろう？
これは最大限人道に配慮した方法なのだ
心苦しいが耐えてくれたまえ』
「――あ、待っ――」
AGP 0.0000000000054674896778
GHK 0.0000000000076359437657
BBM 0.0000007785788040040040
KpL 0.6736938278787875845848

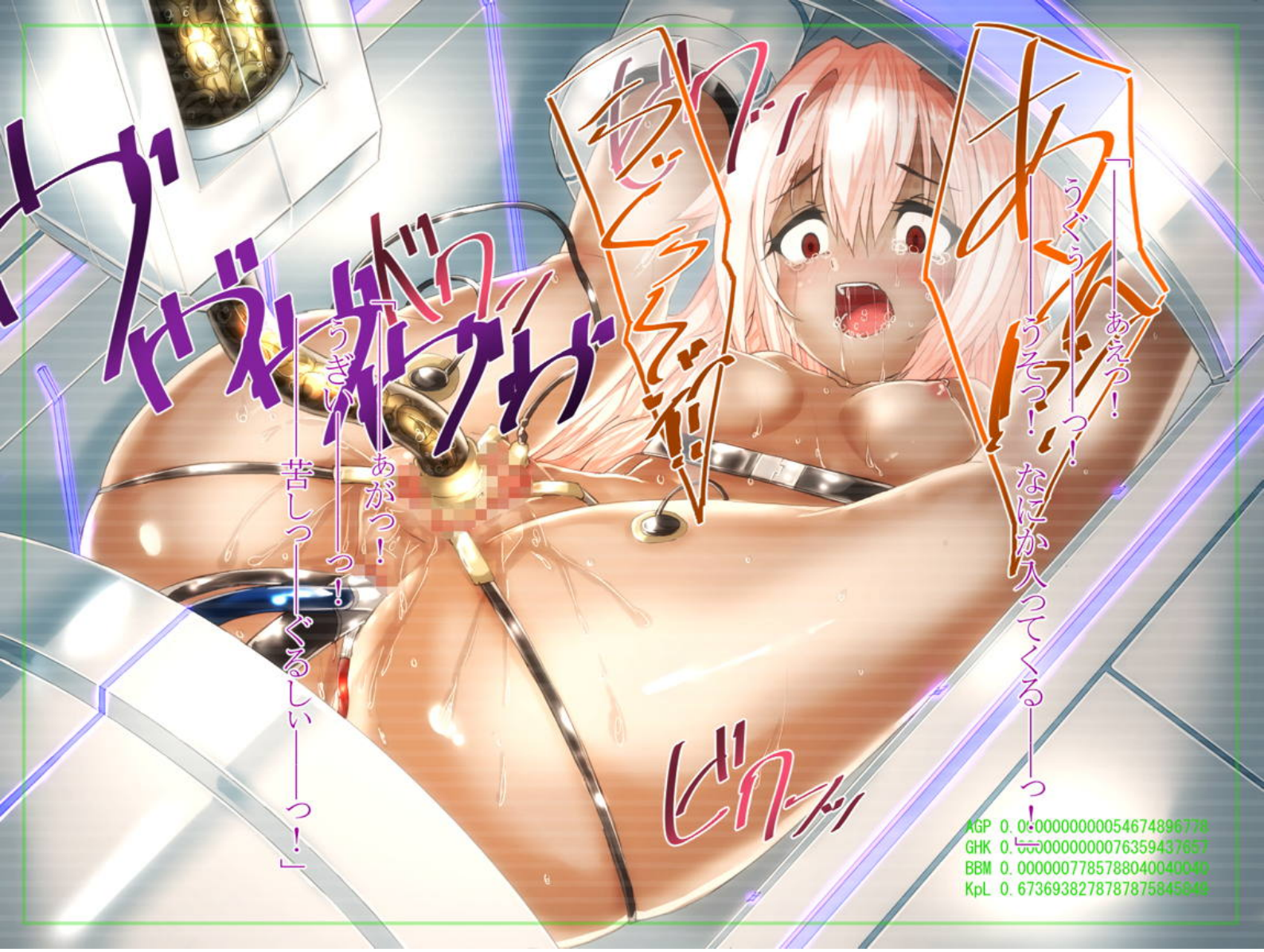

「――あぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁっ――っ！
あぎ――っ！　あがっ！」
「――そ、そんなっ――嘘っ！
止めてっ――これ止めてぇ――っ」
「――あ、あ、あぁっ――っ！
ながっ――中削れちゃうっ
いぎぃ――っ」
「では私は少々席を外す
後ほどまた会おう」
AGP 0.0000000000054674896778
GHK 0.0000000000076359437657
BBM 0.0000007785788040040040
KpL 0.6736938278787875845848

「あぐ――っ
ひぐぅ――――っ！」
「だ、誰かっ――だれがっこれ
止めてえぐださいっ――っ！
たすっ――たすけてえ！」
「な、なんで誰も――
返事してくれないの――っ！
――無理っもうむりぃ――っ！」
AGP 0.0000000000054674896778
GHK 0.0000000000076359437657
BBM 0.0000007785788040040040
KpL 0.6736938278787875845848

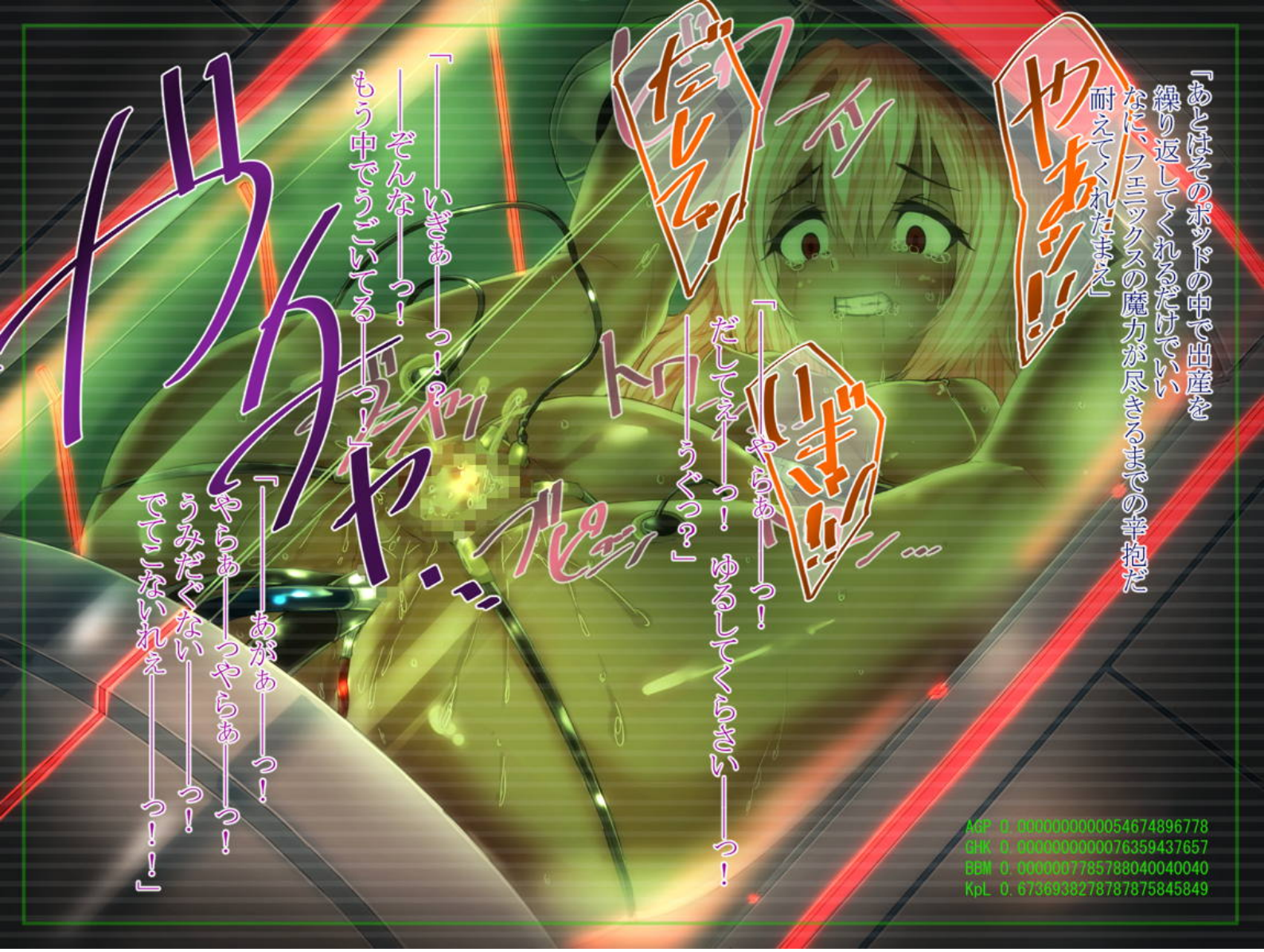

「おっ――おっ――おあっ！
あぁ――っ！」
「――もうっ！
――もうイッてるのにっ
とまらにゃいい――っ！
やだぁ――っ！
もうやなのに――っ！」
「も、もう――とまってぇ――っ
――あがっ！
あおおおお――っ
――あがぁ――っ
――いぐっ――まらいっぢゃう――っ！」
AGP 0.0000000000054674896778
GHK 0.0000000000076359437657
BBM 0.0000007785788040040040
KpL 0.6736938278787875845848

――1時間後
「――ッッ――う」
「――あぇ？」
「ふむ。経過は良好のようだ
では次の段階に移ろう」
ズッ
ピク
ハッ
ハッ
ハッ
ピクッ
プシャッ
ピクッ
AGP 0.0000000000054674896778
GHK 0.0000000000076359437657
BBM 0.0000007785788040040040
KpL 0.6736938278787875845848

「ひ……いぁあ」
やっ、やらぁ……
「――もうやらぁ……っ」
AGP 0.0000000000054674896778
GHK 0.0000000000076359437657
BBM 0.0000007785788040040040
KpL 0.6736938278787875845848


「あぇっ！
うぐぅ――っ！
うそっ！ なにか入ってくる――っ！」
あがっ！
うぎぃ――っ！
苦しっ――ぐるしい――っ！」
ビクンッ
AGP 0.0000000000546748967 78
GHK 0.0000000000763594376 57
BBM 0.0000007785788040040040
KpL 0.6736938278787875845848

「――あががっ――
お――おなか――
おなか破裂しちゃう……ッッ！」
「これは我々の開発した物でね
魔物の卵だ。君にはその魔物
を生んでもらうことになる」
「――た、卵なんてやらぁ……
う――産みたくないれすう
だ、だれかぁ助けてえ――」
「なに。安心したまえ人体にはほぼ害はない
これは事前にマーキングした特殊な
魔力のみを吸収して成長する仕組みになっていてね
今回は君の中のフェニックスを吸収するよう設定してある」
AGP 0.0000000000054674896778
GHK 0.0000000000076359437657
BBM 0.0000007785788040040040
KpL 0.6736938278787875845848


「あとはそのポッドの中で出産を
繰り返してくれるだけでいい
なに、フェニックスの魔力が尽きるまでの辛抱だ
耐えてくれたまえ」
やあッ!!
だレ
いぎッ!!
「――やらぁ――っ!
だしてぇ――っ! ゆるしてくださぃ――っ!
――うぐっ?」
トワ
ぷぴぃ
「――いぎぁ――っ!?
――ぞんな――っ!
もう中でうごいてる――っ!」
ヤ
「――あがぁ――っ!
やらぁ――っやらぁ――っ!
うみだぐない――っ!
でてこないれぇ――っ!!」
AGP 0.00000000000054674896778
GHK 0.00000000000076359437657
BBM 0.00000077857880400400 40
KpL 0.673693827878787584 5849

ぐぱぁ
ぐぱぁ
ぐぱぁ

「ふむ。どうやら成功のようだ
それでは引き続き続けてくれたまえ」
「――やらっ――たしゅけっ――たしゅけれくらさい――わ！
ぎぼち悪いい――っ！」
「――う、生まれたのに――なんれっ！
生んだのにまた中に戻ろうとしてるっ――っ！！
あふれちゃう――っ――はいらない
――もうはいらないい――っ！！！」
「――あが――
ぎぼちわるいのに――なんれぇ
やなのにい――なんれぇ
――いぎっ――いぐっ
――まもの産んでいっちゃう――っっっ！！」
ずぶぶぶ
ずぶぶぶ
ずぶぶぶ
ずぶぶぶ
ずぶぶぶ